

## 令和7年度 第2回八幡地域協議会会議録（概要版）

日 時 令和7年11月6日（木）午後6時30分～午後8時00分  
場 所 八幡タウンセンター 第1・第2会議室  
出席者 12名  
1号委員 池田 義則、池田 洋、島井 里美、佐々木 慶則、佐藤 敬二、  
小松 茂、遠田 修、池田 修、加藤 隆子、小野 良文  
2号委員 信夫 効次、高橋 知美  
欠席者 3名  
1号委員 後藤 桂子、御船 浩弥  
3号委員 池田 香

八幡総合支所 支所長 斎藤 春樹、支所長補佐 齋藤 理博、加藤 裕昭

議事日程 1 開 会  
2 会議録署名委員の指名  
3 会長あいさつ  
4 協議  
（1）酒田市過疎地域持続的発展計画【素案】に対する協議について  
（2）案件の意見集約（市長への報告に向けて）  
（3）その他  
5 その他  
6 閉 会

### 【協議の概略及びその結果】

今回は、酒田市過疎地域持続的発展計画の「素案」について協議を行った。協議の中で委員から出された意見は「計画案」に反映への提言案件とし、あわせて、市長への報告に向けての意見としても集約することにした

#### 1 開 会

○小松副会長開会

#### 2 会議録署名委員指名

○副会長 委員名簿の順番に指名しているので、1番の池田義則委員をお願いをする。

#### 3 会長あいさつ

○信夫会長あいさつ

#### 4 協 議

○議長 「(1) 酒田市過疎地域持続的発展計画【素案】に対する協議について」

「(2) 案件の意見集約（市長への報告に向けて）」

協議の前に、「過疎計画（酒田市過疎地域持続的発展計画）」の「素案」について事務局から説明。

＜ 事務局 説明 ＞

・「素案」についてと、これまで地域住民等から受けた意見について説明。

○議長 これまで地域住民の皆さんからいただいた意見と重複してもよいので、委員の皆さんからの意見を頂戴したい。

○池田義則委員 八幡地域は農林業が主幹産業であり、これからの工場誘致は難しいと思うので、農林業の担い手が増えればよいと思う。

吹浦にキャンプ場があり予約もなかなかとれないが、旅行村や八森の状況はどうなのか知りたい。

○議長 家族旅行村については、自分は取締役をしている。夏場はほぼ満員である。しかし、20棟強あるケビンは老朽化で3割が稼働できていない状況である。

○池田洋委員 合併から20年だが、これからどう続けていくか、旧市内より早く過疎が進むと考えられる旧町に重点をおいて活動していかなければならない。

素案については、掲載事業の優先順位についてふれることはできないのだろうか。また、これまでの実績についても触れることできないのだろうか。「絵に描いた餅」である。

○議長 素案だが、具体性がない。

○加藤委員 昨年大雨の被害について、近くの畑に行くような被災した道路でも、いつ着工でいつ完成の予定か、住民はそれを知りたいと思う。はっきりしたものを広報に細かく載せてもらいたい。

○島井委員 ケビンが3割稼働していないのは残念。使えるようにしてもらいたい。

クルーズ船に関して、玉簾の滝をコースに入れてもらいたい。

○佐々木委員 学童の職員の賃金の安さだが、原資は国からの委託料である。県を通して働きかけをしているが改善は難しいようである。

コミセンの職員の賃金については市で検討してもらいたい。

クマ問題について、河川敷の整備（草刈）を県で取り組んでいるが、洪水の時のことも考えると、（河川敷の）雑木林の整備も取り組んでももらいたい。護岸や浚渫は市議、県議を通して自治会として要望し予算化してもらった。

何事も「見える化」してもらいたい。進捗情報をこまめに出してもらいたい。

○佐藤委員 災害復旧について、自分の被災した田んぼが被災したままである。作付け可能の情報をもっと出してもらいたい。

災害時の情報化について、防災無線を聞き逃したときは（自動）電話対応可ではあるが、集中した時は大丈夫だろうか。

○高橋委員 旅行村の施設について、小学校の自然教室でも使われているが、10年以上前から机にささくれがあったり、雨漏りがあったりして改善されていない。旅行村の予算の

問題とせず、教育委員会（市）でも考えてもらいたい。

学童について、クマ問題で学年によって下校時刻が違う子供を迎えに行くのに難儀している。学校で子供たちが待てるような支援を検討してもらえないだろうか。タウンセンター内で子供たちが午後２時ころから走り回っていたりするが、よい状況とは言えないと考える。

社会福祉協議会のバスの老朽化がひどい。更新を検討してもらいたい。

被災者の仮住まいについて、転居先を取得した時点での退出ではなく、家財が揃うまでといった配慮をしてもらえないだろうか。

○小野委員 災害復旧はいつまでかかるのかということ、国道３４４号線はいつまで不通なのかということの情報を知りたい。

○加藤委員 八森の使われていない施設についても再度利用できるようにできないだろうか。

かつての荘内スーツのような主婦が勤められるような企業を誘致できないだろうか。

移住者への支援についても、目立つようなメニューは用意できないだろうか（祝い金など）。

○池田修委員 集落の人口よりもクマやイノシシの方が多くなっている。対策が遅れていると考える。追い払いの用の爆竹の支給や、柿や栗の木の適切な対処への助言だけというのはいかがなものかと考える。クマやイノシシを増やさないような対策が必要と考える。

ジビエの加工所について検討できないだろうか。

ノベルズ（草津）の糞の臭いについて何とかできないだろうか。

○遠田委員 大沢コミセンの敷地（駐車場）の舗装が痛んでいる。被災したことから各地から視察が多く来ている。対処の検討をしてもらいたい。

○副会長 防災無線について、外のスピーカーでは屋内では聞き取れない（気づかない）。もっと柔軟な対応をお願いしたい。可能であれば地域に特化した情報を得られるシステムへの再検討をお願いしたい。

○議長 玉簾の滝は八幡でも一番の観光地である。それが過疎計画には載っていないのはおかしい。八幡については、八森観光が関わっているものも含めると年間２０万人になる。観光施設については、ヨーグルト製造施設も含めて整備をしてもらいたい。整備には過疎債を活用してもらいたい。

## ５ その他

< 意見なし >

## ６ 閉 会

○小松副会長閉会